

SABO NEWS LETTER

第114号【発行日】平成25年1月7日（月）【発行】（社）全国治水砂防協会

目 次

1. 目次・行事予定 1
2. 国土交通省砂防部長より新年のご挨拶 2
3. (社)全国治水砂防協会理事長より新年のご挨拶 3

行 事 予 定

(全国治水砂防協会)

2/21～22 第53回砂防および地すべり防止講習会（砂防会館別館 「利根」会議室）

ご質問、ご意見、ご感想、記事の詳細内容等、お問合せ先

社団法人 全国治水砂防協会

住所：〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館内

電話：03-3261-8386 FAX：03-3261-5449 E-mail：kyokai@sabo.or.jp

砂防に関する最新情報は砂防協会ホームページをご覧ください。

<http://www.sabo.or.jp/>

国土交通省砂防部長より新年のご挨拶

会員の皆様へ

会員の皆様には穏やかな新春をお迎えのことと存じます。旧年中にいただきましたご教示、ご協力に厚く感謝致しますとともに、本年も変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年的高速自動車国道のトンネルにおいて天井板の一部が落下した事故は、公共施設の維持管理のあり方について大きな一石を投じました。現在国土交通省では本事故の原因の把握や再発防止策、さらには社会資本全般の維持管理・更新に関して重要課題の整理や解決方策の検討を進めており、今後は社会的にもその管理水準や費用の規模が盛んに議論されると思います。砂防においても、土砂災害危険箇所対策を今後も着実に進めるとともに、これまでに整備してきた構造物や警戒避難に資する観測・情報伝達機器等が確実に機能することが大変重要であり、厳しい財政制約の中で難しい問題ではありますが、しっかりと検討して参りたいと考えています。

一方で、人口減少・少子高齢化による社会構造の変化や、行政の効率化の影響を強く受けている山間地域の実情を知る方々からは、いわば国土全体の維持管理と言うべき国土保全の観点からの危機意識が強まっていることを感じています。これからの国土保全はどうあるべきか、それを実現するためにどのように具体的に対応していくのか、という真剣な議論と、その結論を実践していく強い意志が必要です。砂防部としましては会員の皆様から地域の実情や課題をお聞かせ頂きながら一緒に考え、少しずつでも前進して参りたいと思います。

変わりゆく社会情勢の中、様々な課題に対してこれまで以上に柔軟な対応を迫られることも多々あると予想されますが、災害から地域を守ること、さらには国土の7割を占める山間地域を国民全体にとって安全かつ有益な国土として保全し続けるという、時代を超えた重要な目的を決して見失うことなく、これからの激動にも勇気をもって挑戦していく所存です。

末筆となりましたが、皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成 25 年 1 月 7 日

国土交通省砂防部長

みなみ のりゆき
南 哲行

(社) 全国治水砂防協会理事長より新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

皆様は、どのような新年を迎えられたでしょうか。平成 25 年度の予算の政府原案がまだ見えてきませんが、近年の土砂災害の現状を考えると、人命を守る砂防関係事業の予算を充実させていただきたいとの思いは、会員皆様と同じと確信しています。

昨年の総会で承認をいただいた一般社団法人に向けての定款等必要な書類を内閣府で審査していただき、無事内閣総理大臣に答申されました。今年の 4 月から、いよいよ一般社団法人として新たなスタートを切ります。当協会は、砂防会館を運営・管理していることから、一般社団法人に行かざるを得ない事情がありますが、その活動の全ては公益活動そのものであります。その気持ちを忘れずに今年も活動を続けてまいります。

世界の防災に対する潮流は、国際連合の機関であります国際防災戦略 (ISDR) が発信している「防災の主流化 (Mainstreaming Disaster Reduction)」という言葉に代表されるように、各国政府が防災を政策の優先課題とする方向にあります。我が国においても昨年 7 月、東北三県で開催された「世界防災閣僚会議 IN 東北」において防災の優先順位を上げること、予防措置が重要であることが確認されています。

世界銀行と国際連合共著の「天災と人災 (Natural Hazards, Un Natural Disasters - The Economic of Effective Prevention)」にも、増加する自然災害に対する被害に対して防災対策を強く訴えています。日本の砂防は世界に誇る施策・組織・技術・人材を有しています。当協会もその支えとしてより一層活動の幅を広げていきたいと考えています。

本年もよろしく申し上げます。

(社) 全国治水砂防協会理事長 岡本 正男